

みなさまの保険情報

INSURANCE INFORMATION

TOPIC

交通事故より多い、転倒・転落による死亡事故!!

～平成25年は7,766人が転倒・転落事故で亡くなっています!!～



皆さんは日常生活で思わずつまずいたり、足を滑らせて危うく転倒・転落しそうになったことはありませんか？ 一度や二度、そうした経験をお持ちの方もおられるでしょう。

実は、平成25年中にこうした事故によって命を落とした人は1日あたり約21人、総数7,766人にも上り、同年中の交通事故死者数6,060人より多くなっています。転倒・転落による死亡事故は年々増加しており、いまや事故の中でも軽視できない問題になっています。

7割近くが同一平面上での転倒事故!!

転倒・転落といえば階段からといったイメージがありますが、「階段及びステップからの転落及びその上での転倒」による死者数は680人と全体の1割弱です。事故は意外にも「スリップ、つまずき及びよろめきによる平坦な場所での転倒」で起きており、その死者数は5,301人と、全体の7割近くを占めています。

現状は、家庭内での転倒事故が多いものの、今後、高齢者の増加によって、家庭内の事故に限らず、街路や商業施設など公共の場所での転倒が原因で死亡する人が2028年に5,000人を突破すると予報している研究もあります（国土交通省国土政策総合研究所・2007年）。

平成25年中の転倒・転落、交通事故による死者数

死因	死者数
転倒・転落	7,766人
主な死因（内訳）	
スリップ、つまずき及びよろめきによる同一平面上での転倒	5,301人
階段及びステップからの転落及びその上での転倒	680人
交通事故	6,060人

参考：厚生労働省「平成25年人口動態統計」

転倒発生率は若者のほうが高い!!

転倒・転落で死亡する人の約85%は65歳以上の高齢者です。しかし、年代別に転倒発生率をみると、60代より20代の方が高くなっており、年齢が若いからといって安心できるものではありません。

歩道や建物の玄関ホール、駅構内の階段などが雨で濡れていたり、降雪によって路上が凍っていたりすると、普段何気なく歩いている場所が凶器に変貌します。家庭内においてもちょっとした段差や磨かれたフローリング、また、身体の動きの鈍る冬季も注意が必要です。ちょっとした注意と普段からの心がけとともに、子どもから高齢者まですべての年代

にやさしい社会環境づくりに努め、事故を防止していきましょう。

転倒および骨折の発生率

